

# 安房国 一の宮

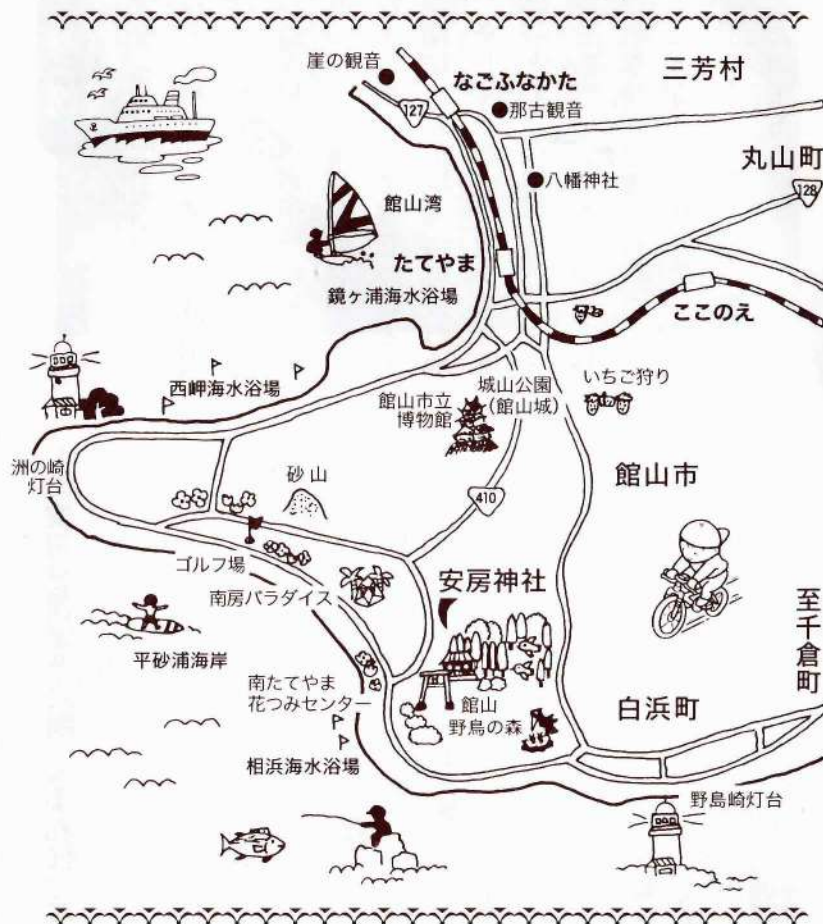
## 安房神社 略記



安房神社社務所

### ●● 交通のご案内 ●●

- 東京 ⇒ 館山 (特急2時間)
- 館山 ⇒ 安房神社前 (バス20分)  
(バス停より徒歩5分)



安房神社社務所

〒294-0233  
千葉県館山市大神宮589  
TEL 0470 (28) 0034  
FAX 0470 (28) 0438



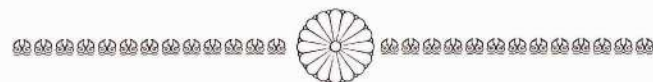
## 由緒・神徳

「古語拾遺」や「先代旧事本紀」といった書物によれば、安房神社の始まりは二六六〇年以上前にさかのぼるという。現在下の宮に祀られている天富命は、神武天皇の勅命により四国・阿波徳島の忌部一族を率い肥沃な土地を求めて旅立つこととなり、海路黒潮にのり房総南端のこの地に到着した。そして上総・下総に進み麻や穀（紙の原料）といった植物を播殖して、その産業地域を広げていった。開拓を終えた天富命は、無事成し遂げられたのも祖先の御加護によるものだと考え、祖父にあたる天太玉命をお祀りして、祖先の恵みに感謝したのである。

「安房忌部家系之図」によれば、元正天皇の養老元年（七一七）に現在の場所へと天太玉命を奉斎し、同時に天富命も下の宮に祀ったという。

上の宮の御祭神である天太玉命は、天照大神のそば近く重臣として奉仕し、天照大神が天岩戸にお隠れになった時には、中臣氏の祖神・天児屋根命とともに大神の出御のために活躍した神である。また子孫にものを作る技術に長けた神が多くいたことから、産業の総祖神としてその神徳を世に顕わしている。

現在は安房全域をはじめ上総・下総・関東地方の信仰を集めており、交通安全・厄除開運・家内安全・商売繁盛などを願う人々がこの地を訪れている。



## 本社御祭神（上の宮）

日本産業総祖神

あめのふとたまのみこと

天太玉命

相殿・后神

あめのひりとめのみこと

天比理刀咩命

## 摂社御祭神（下の宮）

房総開拓の神

あめのとみのみこと

天富命（天太玉命御孫神）

日本武道祖神

あめのおしひのみこと

天忍日命（天太玉命御弟神）



## 置炭・粥占神事（一月十四・五日）

一月十四日の夕刻、正月に用いた門松の松材で火をおこして粥を炊き、薪が燃え尽きるころおきを十二本取り出して並べ、その燃え具合によつて神主が一年間の天候を占定するのが「おきずみしんじ」

「置炭神事」である。

かゆうらしんじ

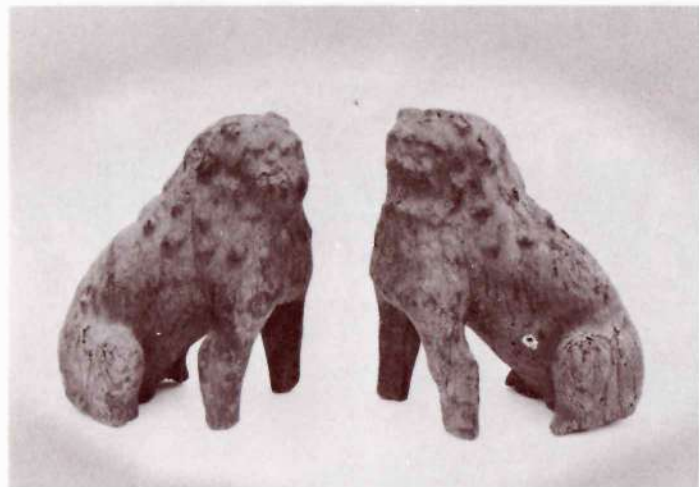
一方の「粥占神事」は、すのこ状に編んだ十二本の葦筒をその鍋に入れて一晚置き、明くる十五日の朝、取り出した葦筒を一本ずつ小刀で割つて粥の入り具合やつやによりその年の農作物の豊凶を占定するというものである。

当社旧記には、これらの神事が宝暦年間から行われていたことが記されている。

## 安房神社年間恒例祭事

|       |      |         |       |
|-------|------|---------|-------|
| 一月一日  | 歳旦祭  | 八月十日    | 例祭    |
| 一月四日  | 有明祭  | 九月十日    | 御飯屋祭  |
| 一月十四日 | 置炭神事 | 九月十四日   | 国司祭   |
| 一月十五日 | 粥占神事 | 九月二十五日  | 琴平社祭  |
| 二月三日  | 節分祭  | 十月十七日   | 拔穂祭   |
| 二月十一日 | 建国祭  | 十月下旬    | 新嘗祭   |
| 二月十七日 | 祈年祭  | 十一月下旬   | 新穀感謝祭 |
| 四月初旬  | 桜花祭  | 十二月十六日  | 神狩祭   |
| 五月上旬  | 御田植祭 | 十二月二十日  | 大祓式   |
| 五月十日  | 下の宮祭 | 十二月三十一日 | 除夜祭   |
| 六月十日  | 蔵島社祭 |         |       |
| 六月三十日 | 大祓式  |         |       |
| 七月十日  | 忌部塚祭 |         |       |

※右の他毎月一日に月次祭がある。



### 宝物 狛犬

文永元年（一二六四年）、日蓮上人が  
四十二歳厄年のおり一週間当社にこも  
って一心不乱に刀を振るい、誓願成就  
のお礼として奉納したのがこの狛犬で  
ある。

他に館山市の指定文化財として、

たかつき ひうちばこ そちようかそもんえんきよう  
高坏、燵箱、木椀、双鳥花草文円鏡、  
そちようかそもんはちりようきよう  
双鳥花草文八陵鏡がある。

### 神棚のまつり方

神棚は床の間に奉安するのが理想的で  
すが、一般には家の内で最も清浄を保ち  
やすく、朝夕の拝礼がしやすい場所が  
適当です。

よく神棚を設ける際に、その方向を云  
云しますが、古い伝えによりますと「南  
向きにまつるを最も吉とし、東向きにま  
つるも宜し」とあります。

### 御神札のまつり方

神棚の正面に天照皇大神様の御神札を  
まつり、向って右側に氏神様の御神札を  
まつり、向って左側に八百万の神々様の  
御神札を御まつりします。

### 拝礼の仕方

まず水で手と口を清めて御神前に進み、  
祈念をこめて二拝（二度おじぎをする）  
次に二拍手し、もう一度拝（おじぎ）を  
します。

これは神社へ御参拝の場合、又家庭の  
神棚の拝礼のときも同様です。

## 安 房 神 社

安房国一宮で、天太玉命（あめのふとだまのみこと）を祭神としている。平安時代の『延喜式』に「安房坐（あわにます）神社」と記される式内社で、すでに大同元年（806）には 100 戸の封戸を有していた。境内には海蝕洞窟遺跡があり、人骨や弥生土器・貝輪・丸玉が発掘されて県の史跡に指定されている。出土した人骨のなかには抜歯のあとが認められ、当時の習俗を知る上で貴重な資料として注目される。また、境内から出土した高坏は 5～6 世紀頃のものとは推定され、古代祭祀が行われていたと考えられる。このほか、燧篋（ひうちばこ）・狛犬・木椀・双鳥花草文陵鏡・双鳥花草文円鏡が市の文化財に指定されている。

### 【交通】

JR 館山駅から

- ・ JR バス関東 白浜行（神戸まわり）  
安房神社前下車 徒歩 5 分

